

2025 年度 自己評価報告書

学校法人佐々木学園

東京グローバルビジネス専門学校

評価項目の達成度及び取組状況

1. 教育理念・目標

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校が教育を行う理念・目的・育成人材像等が定められているか	4
理念・目的・育成人材像を実現するための計画・方法を持っているか	3
理念・目的は、社会のニーズ等に対応し適宜見直されているか	4
理念・目的・育成人材像等が教職員に周知され、学外にも公表されているか	4

① 課題

MVV や『行動指針』が整備され、その存在への認識と理解が進んでいる一方で、『存在しているからこそ』実現できていない点が気になっている。クラス数の増加に伴い、中途採用枠の新入職員も複数名入職し、経営理念や育成人材像、行動指針の浸透が必要であると強く感じている一方で、その落とし込みが OJT のみになっている点を課題と感じる。作成・周知 / 認識のステージから、いよいよ浸透のフェーズへと進む必要性を感じている。

② 改善方法

まずは、『より』多くの関係者に学園や学校の目指すべき姿を広めたいと考える。今年度は非常勤講師の方々にも MVV や組織図を共有し、学園の目指すべき姿を示すことはできたと認識をしている。一方、前述のとおり、それらが広く認識されるだけのフェーズは早期のうちに脱却し、『理解深耕・浸透』のステップへと移行したい。現段階の解決方法としては、役職者や人事部門等の人間がその姿勢を体現し、日常的に言葉や姿勢を周囲に発信するとともに、視覚的にも認識できるような仕掛けづくりをしていきたいと考える。

③ 特記事項

昨年に続き、年度初めの 4 月 1 日、学園全体で研修を実施する。研修会社様のおちからをお借りしながら、組織がより活性化し、同じ方向性を向くための内容を企画していただいた。『目指すべき姿』への浸透に課題感が残る現状の突破口になることを期待したい。

2. 学校運営

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
目的・目標に基づき、運営方針は明確に定められているか	4
目的・目標を達成するための事業計画が定められているか	4
意思決定のシステムは確立されているか	4
人事処遇に関する制度は整備されているか	4
教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	4
業界や地域社会に対するコンプライアンス体制は整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
業務効率化を図る情報システム化がなされているか	3

① 課題

これまで比較的、課題と感じられていた『意思決定のシステム』に関して、今年度は自然的にうまく回りだしたように思われる。開校より数年が経過し、新入職員も増えたことで中間職員が先輩としての自覚を持ち、意思決定をしながら日々実務を回していることに起因しているように感じられる。また役職者を中心に、自身で『判断』ができるようになり、大きな会議が減ったように思われる。

その他、『業務効率化を図る情報システム化』も課題であったが、着実に向上に向けた小さな一歩を重ねられているように思われる。まだまだ改善の余地があるので、今後はその動きを加速させていければと考える。

② 改善方法

2024 年度より組織図に『情報システムチーム』を新設し、そのメンバーが現場の声に応えるように、業務効率化施策を構築してくれている。しかしながら、まだ個々人またはチーム単位へのアプローチにとどまっており、作成された質の良いコンテンツを全体周知できていないように思われる。全体への案内をとおり、学園全体の業務効率化を促進させていきたい。

③ 特記事項

コンプライアンス関係の特記事項として『外部に繋がる相談窓口』や内部用の『HR 相談室』が新設された一方、『業界や社会に対するコンプライアンス体制』の整備には及んでいない。現状制度の守備範囲を拡大し、求められる到達点まで向上をさせていくことが急がれる。

3. 教育活動

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	4
修業年限に応じた教育達成レベルを明確にしているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムになっているか	4
授業評価を実施しているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
目標とする資格・免許は、教育課程上で明確になっているか	4
資格（免許）の指導体制は整っているか	4
資格・要件を満たした教員を確保しているか	4
研修会等教員の資質向上への取り組みを行っているか	4
業界等との連携による教員の技術向上の機会を確保しているか	3
教員たちが連携を図れる組織体制を整備しているか	4

① 課題

体系的な人材育成制度や研修制度を立案し、今年度より走らせていきたい意向ではあったが、現状、手が付けられていなまま、4月より更に多くの新入職員を迎え入れることとなり、後ろめたさを感じたまま新年度のスタートを切ることとなってしまった。当件に関する焦りの気持ちはあるものの焦りすぎることなく、良いものを作るかができるよう学園のMVVや行動指針、あるべき姿をしっかりと反映できるよう築き上げたい。

② 改善方法

人材育成制度や研修制度の考案は、確実に取り組めるよう期日を決めて進めていきたい。また理念等の浸透要素を取り入れることは勿論、現場が『本当に必要な知識・スキル』を習得できるような内容にすること、そして『運営側からの期待値』も反映できるような人材育成体系となるように構築をしていくこともまた必要と考える。

③ 特記事項

過年度、工業専門課程の新設に向けた動きがある中で、既存の『商業実務専門課程 国際ビジネスコース』のカリキュラムに、情報関係の要素のある科目配置を考案し、2024年度より運用を開始した。しかしながら、一度、工業専門課程の設置を見直し、実現をしていない中で、国際ビジネスコースに情報系の要素の強い新たなカリキュラムが残った状態となっている。当該カリキュラムの良さは勿論多くある中で、それが真に既存コースの就職を促進するものとなっているか検証の余地がある。

4. 学習成果

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職率の向上は図られているか	4
資格・免許の合格率の向上が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的評価を把握しているか	3

① 課題

学生の母数が増えたこともあり、多くの学生が資格取得のための検定試験に挑戦した1年であった。一方、現在当校で挑戦できる資格試験が本当に就職に役立ち、社会に出た後に役立つ内容であるか、カリキュラム同様に精査が必要であると感じている。

② 改善方法

今年度、実際に授業を担当していただいている先生より『PCのタイピングテスト』の導入についてご提案をいただき、実際に資格試験を実施したところ、『MOSは限定された職業でしか使用できないが、タイピングはどの職種でも必要とされている』ことを理由に学生、教職員双方から好評を得た。このように、『これまで当たり前に行っていること』に見直しの視点を入れることも必要であると感じられた。また、就職先となるような企業様へのヒアリングをとおり、本当に必要とされているスキルや知識を取得できるように試案することもまた重要であることを実感できた。

③ 特記事項

例年、『卒業生の社会的評価を把握』し切れていないことに、学校としての弱点を感じており、この点の強化策を考えていたが、開校数年が経過し、自然的に企業様等から情報がいただけるようになってきた。また、当校内で開催する就職説明会等に、卒業生が『採用する企業側』として来校をしてくれたりする等、だんだんと卒業生関連就職先とのパイプが太くなってきたことを実感している。しかしながら受け身にならず、自身でも情報を収集する仕組みは引き続き考えていきたい。

5. 学生支援

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
就職に関する支援組織体制は整備されているか	4
退学率の低減が図られているか	2
学生相談に関する体制を整備しているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
学生の健康管理を担う組織体制は整備しているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	—

① 課題

退学率の低減や学生の心身の健康管理等を考えた際、保護者とより強化な連携を図る必要があることを感じている。特に留学生のケースでは、当校都合で保護者の方々にお伝えしたいことがある場合、『当校側から母国語話者』を介して保護者に連絡をしているが、保護者から連絡を受ける手段を整備できていないことを課題と感じている。

② 改善方法

退学防止、学生の心身の健康管理という目的に加え、保護者の方々との信頼関係の構築のためにも、保護者の方々から学校にアプローチできるような術を築き上げたい。留学生の保護者は日本語が話せないことが当然であり、学校側に相談事項があった際、当校へのアプローチは困難であると思われる。学校から保護者に連絡を取りたいことがあるように、保護者のみなさまから学校に連絡を取りたいこともあることを確信し、その整備に着手したい。

③ 特記事項

当校の良いところである『学生から相談を受けた後の対応の柔軟性』を課題と感じたケースがあった。それは、学校側が、考え方や方針をしっかりと浸透しきれてないことに起因していると感じている中、学生からの相談やトラブルに対し、教職員ごとに、対応の色の違いが大きくなってきたと考える。研修等を施さなくとも、日々のコミュニケーションで解決ができる側面もあることと思うので、まずは情報、言葉、気持ちの交換等、基本的な教職員間のコミュニケーションをより大切にしていきたい。

6. 教育環境

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか	4
校外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	2

① 課題

新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い、多くの校外活動を実施できた。次年度はクラス数も増加するので、各種校外学習の実施方法や運営、企画そのものに変更を加える必要がある。しかしながら、新年度が近づく本日現在、学生のことを第一に考えつつも運用に無理のない現実的な企画案が定まっていないことを課題と捉え、速やかに整備をしたい。

② 改善方法

新しい教職員も多く活躍をしてくれている中ではあるが、過年度の企画を見直し、クラス数が増えることで何をどのように改善すれば、企画が円滑に運用されるのか、予算の範囲内で学生に喜んでもらえるのか等を、中心のかつ現実的に考えることができるのは、比較的経験年数の長い教職員であると認識をしている。そのような教職員に声がけを行い、企画の支援を担っていただくことで、早期のうちに、『学生数の多い中での現実的な校外活動施策』に取り組んでいきたいと考える。

③ 特記事項

学生のインターンシップ等の機会が損なわれることがないように、学生保険の整備をし、運用を開始できた。また安全面を意識した校舎のメンテナンス等も、総務チームを中心に抜かりなくできているように思われる。その他、中途新入職員の提案を受け、車いすや AED の整備にも注力が出来た。一方、有事の際の対応に係る取り組みには、更なる尽力の余地がある。学校の規模が大きくなる今だからこそ、より一層の強化を必須と考え動いていきたい。

7. 学生募集と受入れ

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学生募集活動は、適切かつ効果的に行っているか	4
学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考基準は明確になっているか	3
入学選考は、適性に行われているか	3
学納金は、妥当な金額設定になっているか	4

① 課題

新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより、再び多くの留学生が入国をしてくれたことを受け、多くの受験生にご来校いただけた。一方、当校を希望してくださる受験生の選考の方法に難しさを感じた1年であった。特に留学生の選考については、『日本語力』が分かりやすい選考指標ではあるものの、本当にその入試方法が、当校の理念に基づいているのか選考基準に対する議論があった。私立学校であることを受け、ある程度柔軟な選考基準を設けられるものの、法律や学校法等を遵守した上で、学園の理念を大切に、受験生の思い等に寄り添った入試選考を構築させたい。

② 改善方法

『東京グローバルビジネス専門学校』は何故開校され、どのような方々のために存在している学校で、どのような学生を育て、世の中に貢献をしたいのか、今一度、全教職員が同じ思いを持つことが大切と考える。学園にある MVV を人事制度や採用活動、研修等に取り入れているので、ある程度の理解はある前提で、それを『学生募集』やその他の日々の『学校事務』にも役立てたいと考える。色々な考え方があり、幅を持った広い議論に展開するテーマだからこそ、『立ち返る場所や軸』をベースに再構築していきたい。

③ 特記事項

新型コロナウイルス感染症が流行し、学生募集に苦労していた時代に、入試広報のメンバーが諦めることなく学校の魅力を作り発信してくれていた功績もあり、円滑な学生募集を展開できた。一方で、予想を超え、多くの方々に受験をしていただけた中、限られた数の入学生を迎え入れることとなる現実にも心苦しさも感じられる。次年度以降、より丁寧な広報活動の実施により、真に受験をしたい方々により深く寄り添えるような選考を構築したい。

8. 財務

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校及び法人の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
法律や寄付行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
財務情報開示の体制は整備されているか	4

① 課題

少子化が進む時代の中、学生募集は年々厳しさが増しているが、財務状況は概ね健全である。学費の延納、分納を申し出る学生は減ってきているものの、学費の支払い期日が来る度に、必ず一定数はそのような学生がいるのが実情。その学生には、最終的には分納という施策でサポートをさせていただいているが、それ以外の手を打てておらず、経済的に困窮している学生への支援施策の提供を課題として認識をしている。

② 改善方法

退学者の発生は授業料収入の減少に大きな影響を与える。財務基盤の面からも、学生支援の面からも当該課題にはスピード感を持って対応をしていきたい。現状、日本人学生を対象にした奨学金や給付金制度は充実してきている一方、留学生への経済支援施策は、それほど選択の幅が無い。その中でも当学園の留学生にフィットする制度も存在していると思うので、調査をすすめ、学生支援、財務基盤の安定化の一助にしたい。

③ 特記事項

寄附行為に基づき、定期的な予算検討や決算説明のための理事会を開催し、監事の方々に財務状況の確認をお願いしている。数年前より、新しい会計事務所と契約し、より精度高く監査していただく体制を継続することができている。

9. 法令等の遵守

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
関係法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営がなされているか	4
個人情報保護に関する対策が取られているか	4
自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
学校関係者評価結果を公表しているか	4

① 課題

現状、特筆すべき課題はないと推察している。

② 改善方法

特になし

③ 特記事項

弁護士と顧問契約を結び、様々な相談に対し迅速に対応をしていただける体制を整えている。

10. 社会貢献・地域貢献

【評価項目】適切：4 / ほぼ適切：3 / やや不適切：2 / 不適切：1	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2
国際交流に取り組んでいるか	3
学生のボランティア活動を推奨し支援を行っているか	3

① 課題

学校の教育資源、そして留学生と日本人が混在しているという特色を活かし、より創造的な社会貢献、地域貢献の可能性を探る必要性があるように感じられる。

② 改善方法

当校と特色が類似している学校がどのように、地域貢献、社会貢献を行っているのか、まずは、事例の学習を実施すべきと考える。その上で、周辺環境等とマッチする施策を打ち出したい。

③ 特記事項

開始目的に相違はあったが、地域清掃等を開始できた。良い行いであることは確かなので、継続的に行っていきたいと考える。